

## 「コロナ禍の世界」

横浜市駐在員リポート

⑫

インドでは、新型コロナウイルスの新規感染者数が7月の1カ月だけで100万人の大台を超えた。衝撃的な数字だが、感染の現状を把握するためには他の数字

も合わせて総合的に判断する必要があると考える。例えば、ムンバイの7月末の累計感染者数は月初に比べて約46%（3万5499人）増えた。だが現在療養中の患者数は、1カ月間で約31%（9077人）減った。インドの死亡率は2・3%で日本（3・3%）より低く、ムンバイの7月末の回復率は76%で日本（69%）より高かった。こうした数字は日本では知られていない。

るマハラシュトラ州の保健相が感染のピークアウトを迎えたと発表したとのニュースも飛び込んできた。ムンバイに進出している日系企業の大部分は、新型コロナウイルス感染症の収束後でも、インドには引き続きビジネスチャンスや大きなポテンシャルがあると考えており、撤退せずに今

後も駐在員を置く考えのようだ。収束後も、インドが横浜市民や市内企業にとってより身近な存在となるよう、日系企業の関係者らとともに、インド人関係者との信頼関係をさらに強くしていきたい。

（横浜市ムンバイ事務所長 松島 一志）

# 日本より高い回復率

## ムンバイ



7月に独自に都市封鎖されたムンバイの近隣都市ブネ市の市街地の様子 - 8月1日